

ヒューマンライブラリーinにしのみや ブックリスト

①	<p>学習者が夢中になれる日本語教育を目指して (作者:ジョージ@日本語教師)</p> <p>日本語教師として働き始め、20年近くになります。 失敗を重ねながらも「どうすれば学習者を夢中にさせ、勉強をサポートできるか」と考えながら日々の授業や教材作りを頑張ってきました。 そんな私が博士課程に行くことに決めたのは、言語教育へのゲーム要素の導入というテーマに関心を持ったからです。研究は思うように進んでいませんが、将来のことを考えている皆さんに、仕事や研究のことをお話しできればと思います。</p>
②	<p>8カ国のアジア人のママたちと作ってきたレストラン (作者:日本語しか喋れない多国籍料理屋の店長、今はシェフ)</p> <p>もし自分が異国の誰かを好きになり、結婚して言葉が通じない国で生活することになったらと想像してみてください。電車に乗れず、友達も仕事も見つからず、自国で当たり前に行っていたことができない。きっと孤独で自信をなくしてしまうでしょう。 私は大学生の時、そんなアジア人のお母さん達に出会いました。何とかしたいと学生団体を立ち上げ、彼女達が得意な「料理」を屋台やカフェでの仕事にすることで、次第にお母さん達は元気になっていきました。 より多くの雇用とエンパワメントの場を目指し「神戸アジア食堂バル SALA」を開業して8年。これまでの紆余曲折、そしてまだまだ続く冒険をお話しいたします。</p>
③	<p>「バリキャリ」と呼ばないで (作者:外資系メディアの元記者、今は大学教授)</p> <p>「あなた、料理するのね!？」と驚いた友達の言葉は今も忘れません。 私は料理を作り家族や友人に食べさせるのが大好き。彼女が驚いたのは自宅のパーティに招いた時のことでした。2年間アメリカ留学した後に入った外資系メディアでイギリスや日本で記者をした私は、今は大学で教えています。 そんな「バリキャリ」の私は料理などしないと思われています。そんなステレオタイプは窮屈ですが、気にせずやりたいことをやっています。</p>
④	<p>今日から、育休入ります (作者:もとかつ)</p> <p>2020年8月某日、妻の懸命な頑張りによって、第一子となる男の子が誕生しました。生まれた子どもの産声を聞き、妻の無事を知った瞬間、私は自然と涙が溢れ出たことを今でも覚えています。 その日から、社内初の男性での育休がスタートしました。5ヶ月間の育休を通して、自分、家族、仕事それぞれにどう向き合い、何を感じ、どう行動したかを皆様にお伝えできればと思います。</p>
⑤	<p>社会の外側を生きて——見えない「私」の物語 (作者:ゆき)</p> <p>皆さんは「ひきこもり」と聞いてどんな人を思い浮かべるでしょうか。 メディアでよく見る、自室から出てこないゲーム好きの男性?実際は女性も少なくありません。ですが“家事手伝い”や“専業主婦”といったように、女性は家に居ても問題ないという風潮から、女性の当事者は見えにくくなっています。そして同様に、発達障害も男性をモデルにして作られた概念です。 女性で、ひきこもり当事者で、発達障害当事者でもある私の経験をもとに、社会に出て働くとはどういうことかを一緒に考えてみませんか。</p>